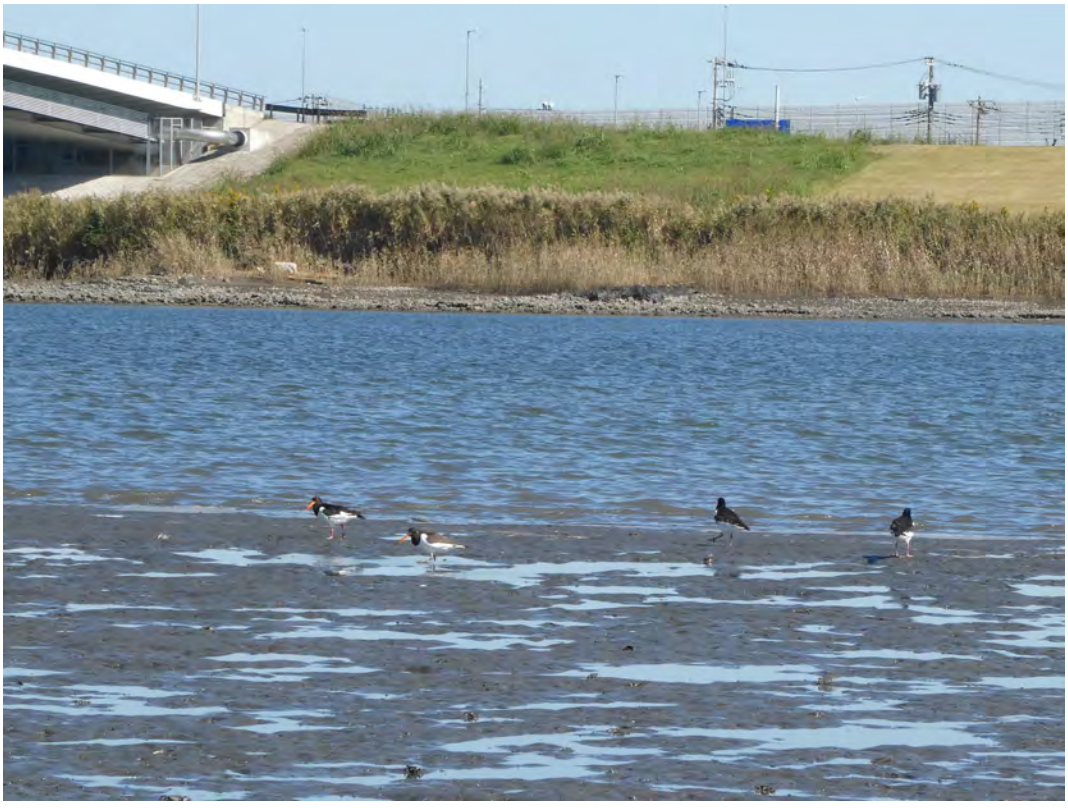
令和3年(2021年)
12–1月号
(通巻　197号)
2021年度

市立 いちかわ 自然博物館だより

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ミヤコドリ
三番瀬に多いミヤコドリが、江戸川放水路にも来ていました。環境が変化し砂質の場所が広がったかもしれません。

P1　いきもの写真館 ミヤコドリ
P2/4　市川市内の絶滅危惧種 ー 植　物 ー
P5　いちかわの植物 30年 ハンノキ ウグイスカグラ
P6　くすのきのあるバス通りから 川がきれいになりました
P6　展示室　飼育生物の話題 大小のナナフシ
P7　わたしの観察ノート 9～10月の記録
P8　ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

環境省レッドリスト 2020 より抽出

市川市内の絶滅危惧種

－植物－

レッドリストは、絶滅のおそれのある野生生物をリストアップしたものです。新しく環境省より「環境省レッドリスト 2020」が公表されていますので、そのリストから市川市域に生育・生息する種類を抽出してご紹介します。第 5 回は植物です。

（絶滅危惧の度合いの表記は、ローマ数字を算用数字に置き換えています）

ここでは「環境省レッドリスト2020」に絶滅危惧種としてリストアップされた植物のうち、「市川市史自然編」の目録に記載されている全種類を掲載します。現時点での市内の生育状況を全種について把握しているわけではないので、明らかに市内から姿を消した種類も含めておきます。ムジナモのように、市史目録でも絶滅として記載されている種類もあります。いくつかの種類については、市内での生育状況などについて紹介します。

「環境省レッドリスト2020」掲載種

●絶滅危惧1A類（CR）

ムジナモ
マメダオシ

●絶滅危惧1B類（EN）

アゼオトギリ
ヒシモドキ
オオアカウキクサ

●絶滅危惧2類（VU）

トキホコリ
ヌカボタデ
コギシギシ
イトハコベ
ヒキノカサ
ノカラマツ
オニバス
タチスミレ
ミズマツバ
ヒメビシ
ミシマサイコ
シムラニンジン
ノジトラノオ
フナバラソウ
ハナムグラ
カイジンドウ
キセワタ
ミズトラノオ
ゴマノハグサ
イヌノフグリ
オナモミ
ミズオオバコ
ジョウロウスゲ
カンエンガヤツリ
コツブヌマハリイ
キンラン
マヤラン
クマガイソウ
イヌカタヒバ
トネハナヤスリ
サンショウモ

●準絶滅危惧（NT）

ホソバイヌタデ
アズマツメクサ

タコノアシ
ノウルシ
ウスゲチョウジタデ
エキサイゼリ
スズサイコ
ヒメハッカ
ミゾコウジュ
カワヂシャ
タヌキモ
ウラギク
フジバカマ
アギナシ
トチカガミ
カワツルモ
ミズアオイ
ミクリ
アサマスゲ
エビネ
タシロラン
ミズニラ

ノカラマツ
絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類
ノウルシ
絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧
フジバカマ
絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧
市内の生育地:いずれも坂川旧河口

江戸川に坂川が合流する一帯（坂川旧河口）に古くから自生しています。いずれも生育状況は良好ですが、植物群落の遷移が進んだ場合や人為の影響を受けた場合には、すぐに危機的状況になると思われます。

イヌノフグリ
絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類
市内の生育地:堀之内貝塚公園

堀之内貝塚に自生しているのを数十年前に発見しましたが、その後、2014年に確認して以降、近年は確認調査を行っていません。斜面が崩れて貝塚の貝殻が露出している場所に生えていましたが、やがて斜面が安定し、オオイヌノフグリやヤエムグラが繁茂するようになると勢いが衰えてしまいました。

イヌノフグリ
1987 年 3 月 30 日撮影　堀之内貝塚

ジョウロウスゲ
絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類
市内の生育地:大柏川第一調節池緑地

緑地にかかわるボランティア団体に確認調査を求められ、2021年7月に現地で確認しました。この時、合わせてオオアカバナとツツイトモも確認しました。いずれも市史目録には掲載されていませんが、絶滅危惧2類に該当します。3種とも埋土種子由来と考えられます。地中に眠っていた種子が調節池の造成をきっかけに目を覚まし、成長したのでしょう。

カンエンガヤツリ
絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類
タコノアシ
絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

ミズアオイ

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生育地:いずれも江戸川

3種とも、治水工事などで江戸川河川敷が大規模に掘り起こされた時に生えてきて群落を形成します。土の中に大量の埋土種子が含まれていると思われます。群落はやがてヨシ原に遷移する過程で消滅しますが、新たな種子が地中に供給されます。これらの植物は、埋土種子という形で生育していると表現するのが適切かもしれません。

キンラン

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類

マヤラン

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類

クマガイソウ

絶滅危惧の度合い:絶滅危惧2類

市内の生育地:いずれも市内の樹林

キンランは市内の樹林では多く見られます。明るい樹林の減少や人の採集圧を考慮して絶滅危惧種とされているのでしょう。マヤランは菌類と共生する生態のため、安定した群落は限られています。クマガイソウはかつて大町にあった自生地で復活した株を、保護育成しています。

マヤラン

1997 年 7 月 7 日撮影　柏井町

カワヂシャ

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生育地:長田谷津

長田谷津では多く、繁茂した群落が水路をふさぐので、むしろ草刈りの対象になっています。湿地の減少や近縁の外来種が増加していることを踏まえて絶滅危惧種にされていると思われます。

ウラギク

絶滅危惧の度合い:準絶滅危惧

市内の生育地:江戸川放水路、行徳近郊緑地特別保全地区

ウラギクは、干潟や海辺のヨシ原に生育します。市内の自生地は、いずれもトビハゼやカニが生息する干潟や、その近くです。キク科は風で種子を大量に散布するため、環境が合うと大きな群落を形成しますが、遷移が進むと減少します。江戸川放水路でも、かつて群落があった場所はヨシ原になりウラギクは消えてしまいました。また、ウラギクが多く生えていた別のヨシ原は不審火で燃えてしまい、その後、見られなくなりました。

ウラギク

1986 年 10 月 18 日撮影　江戸川放水路（河原地先）

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

ハンノキ

ハンノキは、湿地を好む樹木です。長田谷津では湿地にハンノキ林が形成され、そのことが一目瞭然です。市内の他の場所でも、ハンノキが生えている場所はかつて湿地だったと思われる場所が大半です。

柏井町にある大きな緑地をはじめて訪れた時も、ハンノキの存在に気づきました。そこは湿地ではなかったのですが、よく見ると、斜面の裾にあたる場所で小さな水の流れが見つかりました。長田谷津のような谷津の谷底を、谷の途中まで埋め立てた場所だったのです。そこが谷津だったことは地形から読み解けますが、ハンノキが証人として存在していたのです。

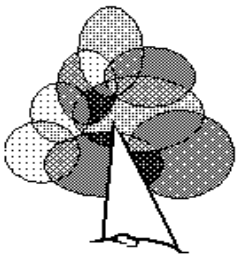
ハンノキ(1987 年 2 月 9 日)
柏井町　花は春はやくに咲く

ウグイスカグラ

春早くに雑木林を歩くのは、気持ちがいいものです。空気が澄んでいて林内は明るくて見通しがよく、これから萌え出す木々の葉や、咲き始める花々への期待感で気持ちが高まるからかもしれません。

何十年も前に市内の林をあちこち歩いていた頃、出会ってうれしい花のひとつがウグイスカグラでした。写真に撮るとピンク色の鮮やかな花ですが、林の中では冬枯れの風景に溶け込んで見落としてしまいます。枝ぶりなどからウグイスカグラだと見当をつけ、それから、咲いてないかな？と花を探して見つけます。

ウグイスカグラ(1987 年 3 月 28 日)
堀之内貝塚　雑木として伐られてしまうことも



くすのきのあるバス通りから No.139

川がきれいになりました

9月29日、真間川の八方橋で小さいボラが100匹ぐらい、緑がかった水の上の方を泳いでいました。11月3日、姫宮団地入口のバス停から大柏川をのぞきました。水は透き通り、ハイガイ？らしき二枚貝が砂に埋まっているのまで見えました。魚が泳いでいるのが見え、写真を撮り拡大してみるとボラのようです。

30年前「市民の手による江戸川水系水質調査団」に参加して、市営霊園から大柏川に流れ込むところから、北方橋までの担当で、水を採取しパックテストをしました。その頃はどの地点も風呂臭と、ユレ藻がありました。

鎌ヶ谷市との市境近くの運動施設の下に浄化施設があると聞き、行ってみました。入口も出口も水質はきれいなようです。下流に向かって行くと、右岸の台地から何か所も、少しですがきれいな水が流れ込んでいます。大柏橋あたりから、少し濁りや泡があるようです。

北方、本北方では下水道管の埋設がすすめられています。生活雑排水が直接川に流れ込まなければ…　雨水と台地からの水だけになれば…　洪水(内水氾濫)を防ぐには…　雨水タンクや浸透桝は…とかつて話題になっていました。徐々にですが、真間川がいろいろな生きものが暮らせる水質になりつつあるのだな、と思いました。　(M.M.)

No.41

展示室
飼育生物の話題

大小のナナフシ

バッタやカマキリ、ナナフシなどは、暖房のきいた室内に卵を置いておくと冬に孵化してしまいます。博物館では、冬に孵化したナナフシを育てることで、成長差がついた大小のナナフシを同時に展示しています。

写真は、左側のケースが夏に捕まえて展示した野外のナナフシの卵がかえったもので、12月なのに小さな若虫がぞくぞく孵化しています。右側は、1年前の冬に孵化したナナフシが春に産卵して、その卵からかえって成虫になったナナフシです。生まれたばかりの若虫と、まもなく産卵する成虫とが同時に飼育されている形です。

ただし、冬に若虫を育てるためには、秋に拾ったドングリを発芽させて新しい葉を用意する必要があります。

わたしの観察ノート

◆長田谷津より

・群生するカナムグラの中で、濃いピンク色のタデが咲いていました(9/8)。葉や茎に毛が目立ちました。ニオイタデです。珍しいタデで、どこでも見られる種類ではありません。

・カシワバハグマが斜面林できれいに咲いていました(9/28)。カシワバハグマ自体は多いのですが、秋の花は夏の草刈りのタイミングで刈られてしまう場合も多くあります。今回は無事に咲いてよかったです。

金子謙一（自然博物館）

・ジュズダマの葉の上にいるクロコノマチョウの姿が目につきました(10/6)。羽化したての個体だと思われます。緑色の葉の上にいれば目立ちますが、落ち葉の上にいると全くわかりません。

・ニホンミツバチの巣があった木の洞から、オオスズメバチがミツバチの幼虫を持って出てきました(10/10)。ニホンミツバチの巣は、オオスズメバチに攻撃されて全滅してしまった可能性が高そうです。

・もみじ山に調査で入りました(10/20)。陽だまりにホソミオツネントンボが飛んでいました。

◆大野町より

・稲刈りが終わったふれあい農園の田んぼに、スズメの大群が群れていました(9/17)。数は1000羽以上いました。近くを飛んだモズに驚いて大群で飛び回っていました。

以上　稲村優一(自然博物館)

◆大町より

・梨畑から、ガチャガチャという鳴き声が聞こえました(9/29)。涼しくなってもう数匹ですが、それでも賑やかです。

宮橋美弥子(自然博物館)

◆坂川旧河口より

・久しぶりに坂川旧河口一帯に行きました(9/17)。キンミズヒキがきれいに咲いていました。ほかにフジバカマ、センニンソウもきれいでした。フジバカマは群落の勢いがずいぶん衰えてきました。原因と対策をあれこれ考えています。

◆じゅん菜池緑地より

・まだ青いモミジのトンネルを歩いていたら、目の前の枝から鳥が飛び立ちました(10/15)。後ろ姿でしたが、ツミとわかりました。こちらもびっくりしましたが、あちらも驚いたのでしょう。

◆中山より

・小学校で子どもたちと自然観察をしました(10/20)。上空高く、ノスリが旋回していて子どもたちも大喜びでした。

◆稲荷木より

・稲荷木緑道ではキンモクセイが咲いていい香りでした(10/5)。カネタタキやコオロギの声も聞こえました。

◆江戸川放水路より

・小学生と江戸川放水路の干潟に行きました(10/5)。至る所でトビハゼが跳ねていましたが、子どもたちはカニ捕りに夢中でした。見るより捕る方が楽しいのは当然ですね。

以上　金子謙一

９月に入ると一気に秋になりました。10月半ばまではさわやかな秋晴れの過ごしやすい日が多くありました。10月1日には大型で非常に強い勢力の台風16号が南岸を通過しました。

自然博物館のwebサイト（ホームページ）を調べ学習や事前学習にご活用ください

自然博物館のwebサイト（ホームページ）では、つぎのような素材（コンテンツ）をご用意しています。

○ オリジナル動画

・グリーンスクールで訪れる大町公園の自然観察園（長田谷津）について、毎月の風景や動植物を動画で紹介しています。

・同じく長田谷津について、タヌキやノウサギ、オオタカなど、一般の観察では見られない動物の生態を、センサーカメラで記録した動画で紹介しています。

・展示や、学校への出張授業で用いた教育普及用動画が見られ、順次増やしていきます。

○ 自然観察週報

自然博物館の学芸員の観察記録です。1998年からのデータを1年ごとにエクセルのファイルで提供しています。すべて市川市内の情報なので、子どもたちのタブレットにダウンロードして調べたい生き物を種名で絞り込んだり、長田谷津や江戸川放水路など場所で絞り込んだりすることができます。たとえば野鳥の「カシラダカ」で絞り込むと、長田谷津では2011年を最後に記録がありません。その原因をテーマに調べ学習を発展させるのもおもしろいと思います。

○ 自然博物館だより

自然博物館が隔月で発行している読み物です。市川市内の自然の話題を取り上げているほか、分類学や生態学の立場で自然や生き物を解説した記事もあります。最新号および創刊号までのバックナンバーをPDF形式のファイルで提供しています（ダウンロードできます。古い号は準備中です）。自然博物館が発行したものですから、書かれている内容についてお問い合わせいただくことも可能です。記事について子どもたちとメールでやりとりできれば楽しそうです。

年末年始の開館について

年内は　26日まで
年始は1月3日開館
5～10日開館
12日よりは通常どおりの開館となります
（月曜日休館。月曜日が休日の場合は翌日）

第34巻　第5号　（通巻第197号）
令和3年12月1日　発行
編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会生涯学習部）
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477